

「不易」と「流行」 誠実・克己・忠恕

～「答え」ではなく・・・何を？・・・「問い」を見つけるんだ！～

最近、自分で考えず、すぐに「答え」を欲しがる人が増えているようです。それでは自分の力になりません。「ドキッ！！」としませんか。何でも調べたければ・・・知りたければ・・・スマホで、ネットで、すぐに答えが画面に出てくる。それは便利なことですが・・・

問題集でも、ワークブックでも、論述的問題になると・・・考えもせず・・・書き出しもせず・・・「空欄！」・・・あとで・・・
模範解答を書き写す。これって自分の力になりますか？

今年から面談週間が設けられました。昼休みや放課後、職員室前の廊下などで行われていますが・・・担任の先生とのやりとりで・・・自分で「答え」を見つけようとせず・・・

「先生！この答えは何？」とか・・・掲示プリントも見ずに・・・

「先生！次何するの？どこ行ったらいいの？」って声を聞きます。

こんな感じでは・・・

「先生！大学どこ受験したらいい？」とか「先生！この大学、入れる？」とか、

「先生！どこの大学が私に合ってる？」とか、「先生！私どんな仕事に就いたらいい？」という声がこの先聞こえてきそうです。

答えは・・・そうですね・・・当然・・・「**あなた次第！**」としか言いようがありませんよね。

さて、今回は・・・大事なのは「答え」を出すではなく、社会で必要とされるのは・・・

「**問い**」をたてること（それってホント？他の方法はない？その答えって変えることできない？その答えって1年後、5年後、10年後も変わらない？）です。



自分で「なぜだろう」と考えないで、「だれだれ先生がこう言ったからそうなんだ」と言ってなんの疑問も持たない。

ある作家さんが、中学の社会科で民主主義について・・・

「選挙をして多数決で決めていく社会だ」と勉強したとき、

「先生、二+二=四ですけど、

多数決で二+二=五だって決まったらどうするんですか？」

と先生に質問したそうです。すると、先生から

「多数決が間違うわけがないからそういうことはない。」

と返ってきて衝撃的だったという思い出を語っていました。

その先生の言葉に従えば、極端な話・・・「池上彰さんが「二+二=五だよ」と言ったからそうなんだ」となってしまうわけです。それは恐ろしいことだと思いませんか？

だから、それぞれに「問い」を持つ必要があるのです。

テレビや新聞、雑誌はお金をもらって作っていますから、損得という「ものさし」が入っています。

だけど、我々は新聞社や雑誌社、テレビ局みたいに、細かい情報を知っているわけではないので、それを信じるしかなくなってしまう。だからこそ、「問い」を持たないといけないのです。

「逆のものさし思考」清水克衛著／HS



日常生活に・・・「問い」を持ってみませんか？ネット社会で、新聞・テレビなどのマスコミ以外からも大量の情報をもたらされる時代です。それらの情報が全て正しいと、情報に流されることなく、・・・自ら「問い」を立てて・・・「探究」する。

そして・・・県高生は・・・自分の進路は・・・自分の未来は・・・「**自分次第！**」でいきましょう！